Church of the 26 Japanese Martyrs

通巻 No.243　2024年1月7日

クリスマス・新年号

教会報ほんじょ

〒130-0011　東京都墨田区石原 4-37-2
TEL：03-3623-6753　FAX：03-5610-1732
http://www.catholic-honjyo-church.org

INDEX

□「七草」
主任司祭　パウロ 豊島 治
□「待降節講話」
「主の降誕の祭日」
□「司牧評議会からの
お知らせ」

「七草」

主任司祭　パウロ 豊島 治

一月のご挨拶を申し上げます。

正月の祝いも終わり日常がはじまりました。二〇二四年もどうぞよろしくお願いします。

今年は聖年を迎える前年となります。大聖年の二〇〇〇年からもう四半世紀すぎるのです。

教皇さまもこのことを念頭に準備をされてきました。文書を読んでいくと教会の在り方、私たちの生き方を変革していこうとしているようです。東京も宣教司牧評議会のなかで二〇二五年の聖年にむけて東京教区の在り方づくりを考えている旨がだされたとききました。今年はそのための準備の年と考えるとしっかり構えていなければいけないかと思います。

私も含めいわゆる「ふるい信者」は変化をうながされてもなんとかなるだろう、いままでそうやってきたという思い込みから心の中に殻をつくってしまいます。それは脳科学的に証明されているそうなので抗えませんが、少しずつ変化事項を知っていくことは大事にしなければなりません。

すべての始まりといえる降誕祭は一般の方もマスクの条件をお願いしながらでしたがお招きできました。十二月二十四日午後五時からの幼稚園関係の方も含めたミサでも午後七時からのミサでも多くの方がいらっしゃいました。司式者の位置からみると信徒の方以外のほうが多いのではと思いました。

とはいえ実質四年ぶりのこのようなミサでしたので、「かつて」と「今」というブランクは感じました。課題を持ち続ける緊張感は共有していきます。

十二月二十五日、日中のミサを終え片付けのために聖堂の入り口に立っていましたら二軒どなりの保育園の子どもたちがじっと聖堂を三つ目通りからみています。みんなでお散歩の時間なのでしょうか保育士の方も二人付き添われていました。「入ってみたい！」「みてみたい！」を口々にいっているのが聞こえています。責任者の先生も困っているようで「そんなのご迷惑よ」というのが聞こえたので身振りでお招きしました。てっきりイルミネーションかとおもっていたのですが、祭壇前のプレゼピオまで歩んでいき見入っていました。

アシジの聖フランシスコがこの降誕を示す姿を模したプレゼピオを初めて据えられてから八百年という記念の年でした。そして「フランシスコ会の教会にあるプレゼピオ前で祈りを捧げることで全免償を得られる」との特別な承認が下りました。期間は二〇二四年二月二日（主の奉献の祝日）まで、フランシスコ会（フランシスコ会、カプチン・フランシスコ会、コンベンツァル・フランシスコ会）の修道院や教会にあるプレゼピオの前で祈ることと、その他必要な行いをもってなされるとのことです。詳しくはネットの情報をご確認ください。

免償についての英語のサイト

フランシスコ会といえば、昨年春にハインリッヒ神父様が帰天されました。関西での活動が主で「ふるさとの家」「こども里」を開設。そのあとを続けたのが同会の本田哲朗神父様・藤原昭神父様が発展させて現在も拠点となり続けています。加えて故郷にある私財をもって職にあぶれた人達が働く土地を確保された方です。普段は物静かでなんとなく怒っているように見えるのですが、大切なことを行動で示し続ける司祭でした。

あるとき、暗い表情をしていた私に「司祭になりたいのでしょ」と一言だけくださいました。それ以外の会話をした記憶がありませんが大事な一言でした。

「あなたは信者でしょ」といわれても胸張れる一年を示すことができるように頑張りましょう。

「編集注、本稿は12月31日に執筆したものです」